

放射線科だより



令和8年4月24日
診療放射線科 宮本 康生

《MRI検査》

MRI（磁気共鳴画像）検査は、強力な磁石と電磁波を使って体内の状態を断面像として得ることができる検査で、**X線を使わないため被ばくの心配がありません**。脳や脊髄、四肢など全身のさまざまな部位をあらゆる角度から詳しく観察でき、**がんの有無や広がり、脳梗塞の確認、骨折の有無、筋肉や靭帯の状態**などを調べることが可能です。身体への負担が少ない**非侵襲的**な検査です。



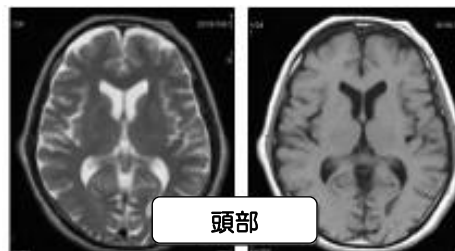
当院で使用している
オープン型MRI

・検査の流れと注意点

まず、**金属類（アクセサリー、時計、メガネ、ヘアピンなど）**をすべて外し、必要に応じて検査着に着替えます。その後、検査室に入り、ベッドに仰向けになります。**撮影中は体を動かすと画像がぼやけてしまうため、30～40分程度じっとしている**必要があります。撮影中には「ドンドン」「ガンガン」といった大きな機械音が発生するため、**不快感を軽減するために当院では音楽を流しています**。

MRI検査は非常に強い磁場を使用するため、**体内に金属が有る**場合は怪我や火傷を負う恐れがあります。そのため、ペースメーカーや人工内耳、金属製クリップなどが有る場合は、検査が受けられない場合があります。

・MRI検査でわかること



頭部



腰椎

MRI検査は、体の中でも特に「**軟部組織**」と呼ばれる柔らかい組織の描写に優れており、非常に幅広い病気の診断に利用されます。例えば、脳の検査では初期の**脳梗塞**を発見することができ、症状が軽いうちに治療を開始する判断材料になります。整形外科の分野では、**関節や筋肉、靭帯の状態**を見ることができます。

検査に関する疑問、質問などございましたらお気軽に検査担当技師までお問い合わせください。